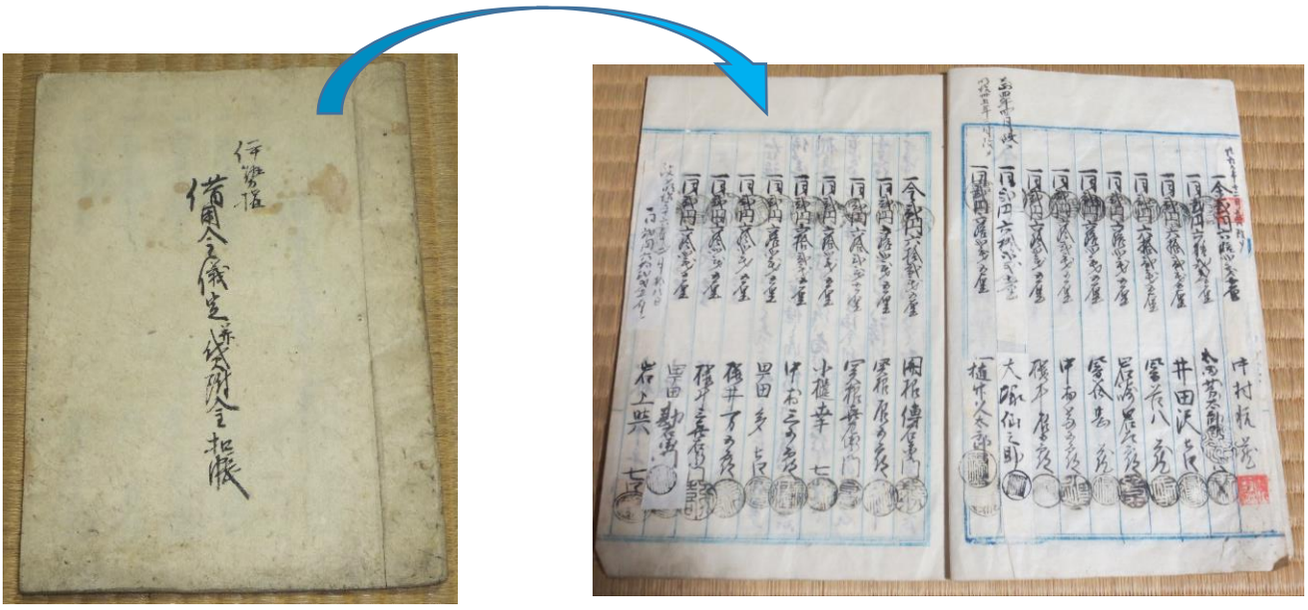
● 中村家と伊勢講 ●

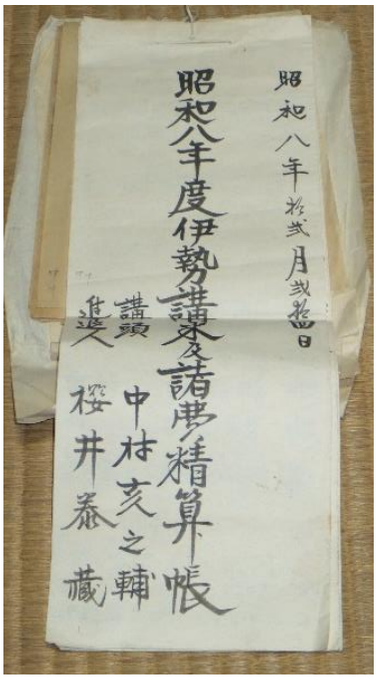
伊勢神宮を信仰する者同士が集まった集団を伊勢講という。伊勢神宮の祭神は、内宮が皇室の祖神である天照大神、外宮には食物・穀物をつかさどる豊受大神である。講中では、毎年代表者を選出し伊勢神宮に代参した。伊勢神宮までの道中は、観光地に寄り、お土産を買うなど今の旅行の原型となるものだった。伊勢参りにかかる費用は、講仲間から積立金を募り、旅費や伊勢神宮の御神札購入費などに充てられた。御神札は他の信徒に配布され、各家で神棚に祀られた。江戸時代に伊勢参りは、民衆たちの間で大変人気となった。それに伴い、伊勢神宮周辺では参拝者の世話をする御師の活動が盛んになった。

■中村家に残されている伊勢講の記録

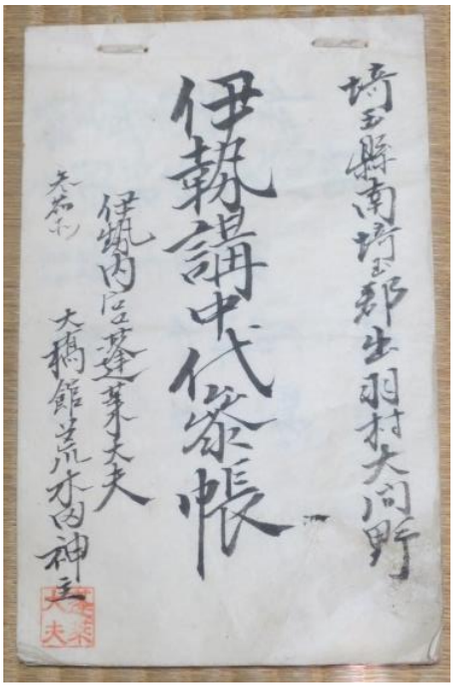
土蔵には伊勢講で使われた代参帳や精算帳など多くの史料が残されていた。これらによって、中村家が伊勢講において、講金の管理など講運営の中心になっていたことがわかる。



「伊勢講借用金儀定並兼貸附金控帳」（講の活動において金銭の融通が行われていたことがわかる。）



「伊勢講金及諸費精算帳」（昭和 8 年）



「伊勢講中代参帳」